

## 付録-6 詳細調査報告書様式

—目次—

	ページ
詳細調査写真	1
コンクリート健全性調査票	2
アルカリ骨材反応調査	6
塩害調査票	8

## 詳細調査調書（その1）詳細調査写真

管理番号		工営所		路線名		監督職員		点検日	
施設名称		延長		幅員		建設年		交差対象物名称	
委託名		業者名				点検者名		所在地	起 終

詳細調査写真	写真番号		撮影年月日		写真番号		撮影年月日	
			位置記号				部材名	
			部材記号				部材記号	
			損傷の種類				損傷の種類	
			損傷度評価				損傷度評価	
			メ	モ			メ	モ

コンクリート健全性調査票（調査位置概要図）

管理番号		工営所		路線名		監督職員		点検日	
施設名称		延長		幅員		建設年		交差対象物名称	
委託名				業者名		点検者名		所在地	起 終

調査位置図	
その他	

※ 調査箇所の概要がわかるような記録をする（橋梁全体のどの径間を調査したか、どの部材を調査したかわかるように記入する）

中性化深さ調査票（調査結果）

管理番号		工営所		路線名		監督職員		点検日	
施設名称		延長		幅員		建設年		所在地	起
委託名				業者名			点検者名		終

調査位置詳細図（※1）				調査結果					
		調査径間		調査径間		調査径間			
		調査部位		調査部位		調査部位			
		測定結果 (mm) (※2)	中性化深さ	①		測定結果 (mm) (※2)	中性化深さ	①	
				②				②	
				③				③	
				平均				平均	
		測定結果 (mm) (※2)	かぶり深さ	①		測定結果 (mm) (※2)	かぶり深さ	①	
				平均				平均	
		環境条件 (通常:1、塩害:2)				環境条件 (通常:1、塩害:2)			
		発錆限界深さ (※3)				発錆限界深さ (※3)			
竣工年				竣工年					
供用年数				供用年数					
判定（中性化進行状況より、コンクリートの品質低下が懸念される場合は×、されない場合は○）									
その他									

※1 調査箇所の詳細がわかるような記録をする（基本となる部材からの距離などを記入）。

※2 中性化深さは3箇所測定し、それらの値は平均値からの偏差が±30%以内でなければならない。（平均値からの偏差(%)=[(個々の値-平均値)/平均値]×100）

※3 発錆限界深さは、通常環境（かぶり深さ-10mm）、塩害環境（かぶり深さ-25mm）とする。

圧縮強度調査（コア法）

管理番号	工営所	路線名	監督職員	点検日
施設名称	延長	幅員	建設年	交差対象物名称
委託名	業者名	点検者名	所在地	起終

調査結果	試料1	位置記号	供試体寸法		質量 (kg)		
		部材記号	供試体質量 (g)	1		見掛けの密度	
				2		最大荷重 $f_c'$ (N)	
			平均		高さ補正值		
		供試体直径 (mm)	1		高さ補正後圧縮強度 (N/mm <sup>2</sup> )		
			2		静弾性係数 (kN/mm <sup>2</sup> )		
			平均		設計基準強度 (N/mm <sup>2</sup> )		
				判定(圧縮強度>設計基準強度なら○)			
	試料2	径間	供試体寸法		質量 (kg)		
		部位	供試体質量 (g)	1		見掛けの密度	
				2		最大荷重 $f_c'$ (N)	
			平均		高さ補正值		
		供試体直径 (mm)	1		高さ補正後圧縮強度 (N/mm <sup>2</sup> )		
			2		静弾性係数 (kN/mm <sup>2</sup> )		
			平均		設計基準強度 (N/mm <sup>2</sup> )		
				判定(圧縮強度>設計基準強度なら○)			
	試料3	径間	供試体寸法		質量 (kg)		
		部位	供試体質量 (g)	1		見掛けの密度	
2					最大荷重 $f_c'$ (N)		
平均				高さ補正值			
供試体直径 (mm)		1		高さ補正後圧縮強度 (N/mm <sup>2</sup> )			
		2		静弾性係数 (kN/mm <sup>2</sup> )			
		平均		設計基準強度 (N/mm <sup>2</sup> )			
			判定(圧縮強度>設計基準強度なら○)				

圧縮強度調査（反撥硬度法）

管理番号		工営所		路線名		監督職員		点検日	
施設名称		延長		幅員		建設年		交差対象物名称	
委託名				業者名		点検者名		所在地	起 終

調査結果	調査No	1			調査No			
	調査部位	主桁			調査部位			
	測定回数	測定値	測定回数	測定値	測定回数	測定値	測定回数	測定値
	1		16		1		16	
	2		17		2		17	
	3		18		3		18	
	4		19		4		19	
	5		20		5		20	
	6		21		6		21	
	7		22		7		22	
	8		23		8		23	
	9		24		9		24	
	10		25		10		25	
	11		26		11		26	
	12		27		12		27	
13		28		13		28		
14		29		14		29		
15		30		15		30		
平均値				平均値				
標準偏差σX				標準偏差σX				
打撃角度α (°)				打撃角度α (°)				
角度補正值ΔR				角度補正值ΔR				
補正反撥硬度R				補正反撥硬度R				
補正前圧縮強度 F' (N/mm <sup>2</sup> )				補正前圧縮強度 F' (N/mm <sup>2</sup> )				
材齢係数K				材齢係数K				
補正後圧縮強度 F (N/mm <sup>2</sup> )				補正後圧縮強度 F (N/mm <sup>2</sup> )				
設計基準強度 (N/mm <sup>2</sup> )				設計基準強度 (N/mm <sup>2</sup> )				
判定				判定				

アルカリ骨材反応調査（調査位置概略図）

管理番号		工営所		路線名		監督職員		点検日	
施設名称		延長		幅員		建設年		交差対象物名称	
委託名				業者名				点検者名	
								所在地	起 終

位置記号	~	部材記号	
調査位置図（※1）			
その他			

※1 調査箇所の詳細がわかるような記録をする。（基本となる部材からの距離などを記入）



アルカリ骨材反応調査（調査結果）

管理番号	工営所	路線名	監督職員	点検日
施設名称	延長	幅員	建設年	交差対象物名称
委託名		業者名	点検者名	所在地
				起終

位置記号		～							部材番号						
調査結果（※1）	試料1	基長 (mm)													
		標準養生	解放膨張量 (mm)					解放膨張率 (%)							
		促進養生	時間	24h	48h	72h	96h	120h	144h	168h	1W	2W	3W	4W	5W
		残存膨張量 (mm)													
		残存膨張率 (%)													
		促進養生	時間	6W	7W	8W	9W	10W	11W	12W	13W				
		残存膨張量 (mm)													
		残存膨張率 (%)													
		全膨張量 (mm)													
		全膨張率 (%)													
	残存膨張性														
	試料2	基長 (mm)													
		標準養生	解放膨張量 (mm)					解放膨張率 (%)							
		促進養生	時間	24h	48h	72h	96h	120h	144h	168h	1W	2W	3W	4W	5W
		残存膨張量 (mm)													
残存膨張率 (%)															
促進養生		時間	6W	7W	8W	9W	10W	11W	12W	13W					
残存膨張量 (mm)															
残存膨張率 (%)															
全膨張量 (mm)															
全膨張率 (%)															
残存膨張性															
試料3	基長 (mm)														
	標準養生	解放膨張量 (mm)					解放膨張率 (%)								
	促進養生	時間	24h	48h	72h	96h	120h	144h	168h	1W	2W	3W	4W	5W	
	残存膨張量 (mm)														
	残存膨張率 (%)														
	促進養生	時間	6W	7W	8W	9W	10W	11W	12W	13W					
	残存膨張量 (mm)														
	残存膨張率 (%)														
	全膨張量 (mm)														
	全膨張率 (%)														
残存膨張性															
アルカリ骨材反応（※2）															
判定															
評価															

※1 促進養生試験（JCI-DD2）またはカナダ法に準じて分析した結果を記入する。カナダ法の場合は、2週目までの測定値を記入する。

※2 試料1～3の最悪値とする。

塩害調査票（調査位置概要図）

管理番号		工営所		路線名		監督職員		点検日	
施設名称		延長		幅員		建設年		交差対象物名称	
委託名				業者名				点検者名	
								所在地	起 終

調査位置図	
その他	

※ 調査箇所の概要がわかるような記録をする（橋梁全体のどの径間を調査したか、どの部材を調査したかわかるように記入する）

塩害調査票（調査結果）

管理番号		工営所		路線名		監督職員		点検日	
施設名称		延長		幅員		建設年		交差対象物名称	
委託名				業者名		点検者名		所在地	起終

調査位置詳細図（※1）		調査結果					
		位置記号					
		部材記号					
		含有塩分量 測定結果 (kg/m <sup>3</sup> ) (※2)	表面部（0-30mm）				
			中間部（30-60mm）				
			深部（60-90mm）				
			深部（90-120mm）				
		中性化深さ(mm)					
		かぶり深さ測定結果(mm)					
		鉄筋位置の塩化物 イオン濃度					
		竣工年					
供用年数							
判定（1.2kg/m <sup>3</sup> 以上：要対策，1.2kg/m <sup>3</sup> 未満：対策不要）							
評価							

※1 調査箇所の詳細がわかるような記録をする（基本となる部材からの距離などを記入）。

※2 JIS A 1154に準じて分析した結果を記入する。